



# ちばりは ニュース

2025年 秋季発行 第62号

〒266-0005 千葉市緑区誉田町1-45-2

TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857



ホームページ  
chiba-reha.jp



X  
CHIBAREHA



Instagram  
CHIBAREHA

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

## 理念

「誰もが街で暮らすために」  
Everybody will be in own town

## 基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

## 口から食べる支援チームの活動

この「口から食べる支援チーム」は、患者さんが口から食べることをサポートするために2023年3月に千葉リハセンター内の有志メンバーで発足しました。

現在では、回復期リハビリテーション戦略委員会の小グループまで成長し、日々活動をしています。チームは、看護師、生活援助員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士など多職種で構成され、各専門職の知識や技術を活かして「誰もが安心安全に口から食べ続けること」をモットーに活動しています。今回は私たちの取り組みについてご紹介します。

### ① 摂食嚥下リハビリの質向上

口から食べるための支援は、摂食嚥下機能に加えて、生活の質を勘案した『生活者としての包括的視点』での評価と支援スキルが必要となります。KTBC(口から食べるバランスチャート 図1)という評価ツールで包括的にアセスメントし、患者さんをどのようにケアすれば食べる力を維持・改善できるかを「見える化」しています。

また、年に1回勉強会を開催し、KTBCの普及や評価者の養成を担っています。

### ② 口から食べるチャンスを多職種でつくる

経管栄養や離床困難な患者さんについてKTBCを活用し、チームで検討を進めています。すでに経口摂取できている方だけではなく、まだ食べることができない方も、支援の重要な対象と捉えています。食べることは非常に多くの視点(図2)が必要であり、多職種連携が肝となります。



図1

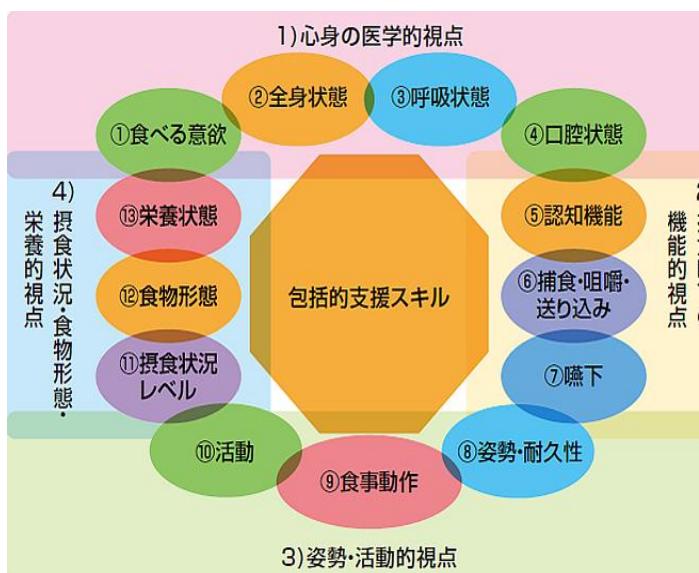


図2

### ③ 窒息リスクの回避

肺炎は高齢者の死因の第5位(厚労省 2024)であり、その7割近くが誤嚥性肺炎であるという報告もあります。それに加えて最も気をつけなくてはいけないことが食べ物による窒息です。窒息リスクをいち早く評価し、安全な食形態の提供と見守り体制を構築しています。

窒息しやすい食べ物ワースト 10	誤嚥しやすい食べ物の特徴
<p>第1位：餅 第2位：あめ類 第3位：ご飯 第4位：パン類 第5位：団子 第6位：ミニカップゼリー 第7位：こんにゃく 第8位：かすてら 第9位：豆腐 第10位：かまぼこ <small>(内閣府の調査より)</small></p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・サラサラした食べ物 味噌汁、お茶、ジュース、水分の多い果物など</li><li>・咀嚼しにくい食べ物 餅、イカ、せんべい、ナッツ類など</li><li>・パサパサした食べ物 パン、クッキー、焼き魚など</li><li>・ベタベタした食べ物 餅、団子など</li><li>・粉っぽい食べ物 きな粉、粉菓など</li></ul>

**誤嚥しにくい(比較的安全な)食べ物の特徴**

- ・均一でまとまりがある
- ・べたつかない
- ・飲み込むときに形が変わる
- ・容易に噛める軟らかさ

ヨーグルト、ポタージュ、お粥(離水に注意)、茶わん蒸し(具なし)など

**※煮る、蒸すなど調理法を工夫する。飲み物にはとろみをつけるなどで食べやすくなります。**

### ・・・まとめ・・・

食べることは生命維持に欠かせない栄養摂取の側面と家族・友人と食卓を囲みながらの団らんや旬の食材を通じて季節を感じるなど楽しみとしての側面があり、生活の質を維持するためにも欠かせない要素です。経管栄養の実施割合は介護療養病床で62.2%、医療療養病床で63.3%(日本慢性期医療協会2016年)と慢性期の現場では多くの方が経管栄養になっているのが現状です。

「食べる」とは『人』を『良くする』と書きます。口から食べる支援を実践することで、その方の「生きがい」にも繋がります。食べることに困難さがある方が、食べることの楽しみを維持できるよう、これからもチームで研鑽を続けていきます。

現在は回復期リハビリテーション病棟を中心に活動をしています。今後、千葉リハセンター全体へ活動の輪を広げて、チーム千葉リハで患者さんの「口から食べる」ことを支援してきます！



# 第32回 千葉リハビリテーションセンター夏祭り

千葉リハビリテーションセンターでは、毎年恒例の夏祭りを今年も開催しました。ここ数年は感染症対策のため、規模を縮小し、愛育園を中心に大ホールと一部病棟を使った形で開催しています。それでも、スタッフの熱意と工夫により、子どもたちにとつて忘れられない楽しい時間が生まれました。

## ■ 感染症対策を徹底しながら、心温まるお祭りを実現

コロナ禍以来、感染症発生のリスクを避けるために、以前のような大規模な祭りは難しい状況が続いています。しかし、「子どもたちに夏の思い出を届けたい」というスタッフの強い思いから、今年も手指消毒やソーシャルディスタンスの確保、マスク着用の徹底など感染対策を徹底しながらセンター夏祭りを開催しました。



■ 子どもたちが主役！笑顔あふれる屋台とイベント  
会場には、スタッフ手作りの屋台が並びました。パフェの屋台をはじめ、ボール転がしゲームやフォトスペースなど子どもたちが夢中になれる遊びがいっぱい。スタッフと子どもたち、ご家族が一緒に笑い合う姿は、まさに夏祭りならではの光景です。



## ■ 伝統と楽しさが融合！お神輿とあの「サンバ」で大盛り上がり

夏祭りのハイライトは、やはりお神輿と和太鼓のリズムに合わせた踊り。今年もスタッフが力を合わせてお神輿を担いで練り歩き、元気な掛け声が響き渡りました。そして、恒例のあの「サンバ」では、会場が一体となって踊り、笑顔と拍手があふれる時間に。音楽に合わせて体を動かすことで、子どもたちの表情が一層輝いていました。



## 栗林欣子さんが「千葉県看護功労者知事表彰」を受賞されました！

当センターの副看護部長 栗林欣子さんが「千葉県看護功労者知事表彰」を受賞されました。そこで、お話を伺いました。

Q 受賞された感想をお聞かせください！

A 千葉リハビリテーションセンターで働かせてもらっていたから、受賞することができたと感謝、感謝です。

Q お仕事をされていて今まで一番嬉しかったことは何ですか？

A 看護師として、重症心身障害児者とその家族の思いに応えることができたとき  
教育担当となって、スタッフの皆様が「学んでわかった」と言  
い、成長した姿を見たとき



Q これからの目標を教えてください。

A 75歳を目標に看護師として働き続け、100歳でも元気な看護  
師として障害のある子どもたちの支援がしたいと考えています。

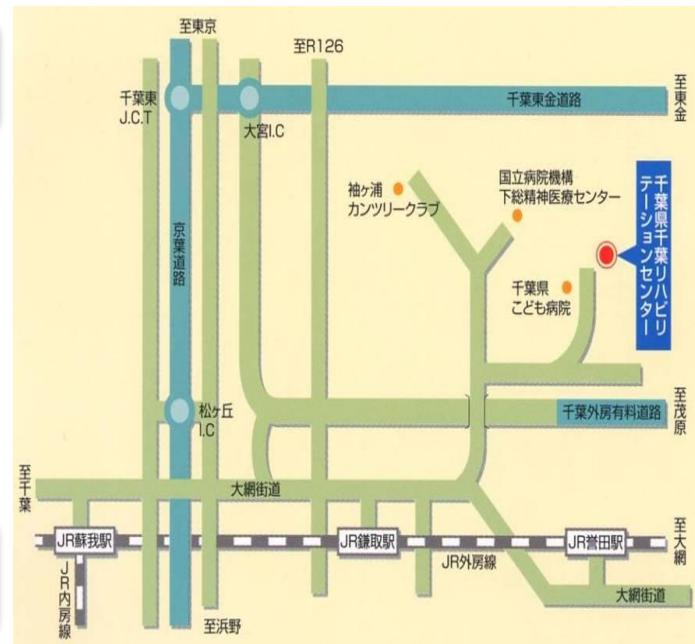
### センター案内図

#### お車のご利用の場合

- 千葉東金道路 大宮インターから約10分
- 京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

#### 電車・路線バスのご利用の場合

- JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分



### 無料送迎バスのご案内

JR鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き 千葉リハビリテーションセンター発 JR鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20
12	10 30 50	
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13
12	03 23 43	
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

- ① センター送迎バス発着場所について  
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近  
(専用のバス停はございません)  
センター発・・センター正面玄関前
- ② 車椅子ご利用の乗車定員について  
中型バス(白色)・・・2名  
マイクロバス(水色)・・・3名
- ③ 日曜・休日は運休となります。
- ④ 道路混雑等により遅延する場合があります。